

学校関係者評価報告書(令和元年度)

令和元年度の学校評価委員会を開催し、「KCS鹿児島情報専門学校」の自己評価結果及び発表内容をもとに、学校関係者による評価を以下のとおり実施した。

評価実施日 令和2年3月7日(土)

学校関係者評価委員……6名

学識経験者1名、企業関係者1名、高校関係者1名

地域住民代表1名、卒業生代表1名、保護者代表1名

評価コメント

評価	評価に係る提言・改善等
(1)教育理念・目標 教育理念・人材評価目標を実現するために、教育課程を改善する仕組みが確立している。 AI エンジニア育成の専攻が設置されるなど、時代に即した人材育成がなされている。	先行事例を参考に、教材開発や教員育成を進めてください。
(2)学校運営 例年通りの教育成果を達成できている。 若手教員が増え、若手教員は教材研究の負担が増え、ベテラン教員を若手の負担を軽減するために校務負担が増え、残業が増えている。 ビジネス系科を廃止し、システム開発系学科の定員を増やしたことで、学校運営の効率が高まることが期待できる。	職員の残業時間が増えているとのことなので、更に働き方改革を図ること。 引き続き若手教諭の育成をしっかりと行うこと。
(3)教育活動 概ね順調に教育成果を達成できている。 「主体的学び」を意識して教育活動を行っている。	学生アンケートで見えた課題に対する改善に取り組むこと。 職業実践型授業を更に拡大してほしい。 引き続き社会人基礎力の育成(特にコミュニケーション能力の育成)にも注力すること。

<p>(4)学修成果</p> <p>学科ごとに目指す IT 専門資格を取得し、概ね I T 関連企業に就職できている。</p> <p>情報処理技術者試験の取得率が高く、基礎をしっかり教育できている。</p> <p>コミュニケーション能力育成の重要性は、職員間で共有できている。</p>	<p>コミュニケーション能力を高めることが、退学や離職を防ぐことにつながる。自発的に話す機会を与えるなど、何かしらの投げかけが必要ではなかろうか。</p>
<p>(5)学生支援</p> <p>高等教育段階の教育費負担軽減新制度の対象校として認定されたので周知を図る。</p> <p>担任だけに依存せず職員相互間で学生を見守り学生の異変に早く気づく体制が重要である。</p> <p>キャリアカウンセラーによる就職支援や教育カウンセラーによる支援が常時行われている。</p>	
<p>(6)教育環境</p> <p>インターンシップ活動を推奨し、学生の参加件が増えてきている。インターンシップ受け入れ先として地元 IT 企業が増えたのは評価できる。</p> <p>教材・教具は概ね適正に整備されている。</p> <p>校内美化活動が活発に行われている。</p>	<p>インターンシップが就職に直結しなくても、学習意欲を高める効果が期待できる。</p>
<p>(7)学生の受入れ募集</p> <p>AI 専攻を設置するなど改組改変を行った成果が出てきつつある。</p> <p>入試制度の見直しも行われている。</p> <p>入学者の確保については、かなり工夫されており、その成果が数値に表れている。</p> <p>学生募集に関しては、広報担当のみならず職員全員で取り組んでいる。</p>	<p>女子学生の確保に更に工夫を要する。</p>
<p>(8)財務</p> <p>学園全体としても入学者が大きく増える見込みである。</p>	

<p>(9)法令等の遵守</p> <p>学園のモットーである職業倫理と Quality Firest が浸透している。</p> <p>年度初めから敷地内全面禁煙としたが、トラブルもなく定着している。</p>	
<p>(10)社会貢献・地域貢献</p> <p>高校生や高校教諭向け講座に加え、地域住民向け講座や、小学生向け講座等も実施されている。</p>	<p>地域住民や小学生講座は、集客を増やす方が必要である。</p>

以上